

ドキドキ、3才児検診

江藤 衣里

まもなく4歳になる息子。何か月も前に3歳児健診を終えてきたのですが、なんと3つも検査に引っかかってしまい、笑い話になるまでこんなに時間がかかってしまいました。そんなトラブルまみれの3歳児健診について、今回は綴っていこうと思います。

事前からトラブル続出！

まず、3歳児健診の1か月頃前に保健センターから分厚い封筒が届きました。「事前に自宅で聴力と視力の検査をしてきてください」とのこと。封筒の中には問診票、尿検査用のポリ容器の他に、紙製の眼帯や各検査用のキットなどが入っていました。

真面目な私は検査資料に書いてあるものに則って、厳格に、なるべく精密に検査を行いました。窓を閉め、テレビを消し、遊びたがる息子に必死に言い聞かせ、視力と聴力の検査を行いました。すると聴力の検査中、柵に押し込めたおもちゃに視線を奪われた息子がいくつか聞き取りそびれてしまったため、「聞き返さないでください。検査は1度きりです」の注意書きに沿って、きちんとバツ印をつけました。

とは言え、どんなに遠くを走る救急車の音でも、いち早く聞きつけるサイレンカー好きの息子の聴力に問題があるとは思えないため、自宅検査程度でバツ印がつこうが関係ないだろうと高をくくっていました。そこまでは良かった(?)のですが、健診前日、突如息子が39℃の熱を出してしまいました。健診に行けるかも危うかったのですが、一晩で熱は下がり、無事健診会場へ向かうことができました。

不穏な健診結果

健診会場は、たくさん親子がところせましと押し寄せていました。検査項目も多く、待ち時間も長かったのですが、絵本を見たり、外の風景（山形の保健センターは駅と隣接しているため、窓から電車や新幹線が見えるのです）を楽しんだりして過ごしました。ところが、耳鼻科の先生の間診の際に、胡乱な目をした先生が「お母さん、この結果では精密検査が必要です」と仰るのです。「え？こちらで聴力検査をするのではないのですか？」と尋ねると、鼓膜の検査はできるものの、精密な聴力検査は専門機関でないとできないとのこと。

「必要な書類を用意しますので、あとで受け取ってください」との先生の言葉を聞きながら、一瞬呆然としてしまいました。ちょっと息子がおもちゃに気を取られていたことが、こんなに大事になるなんて……。とはいえ、結果は結果です。ちょっとしたイベントだと思って乗り

越えることにしました。

その後、尿検査と低身長でも要精密検査になってしまい、再び呆然としてしまうのですが、尿検査は前日熱が出たことを伝えると「あーそれは災難だったね。よくある」との保健師さんの言葉に少し癒やされました。

精密検査

そんなことで、保育園をたびたび休みながら、各医療機関へ精密検査に行くことになりました。

聴力検査は、市立の大きな病院へ行くことになりました。ヘッドホンをつけ、検査医の先生が「飛行機の音が聞こえたら手を挙げてくださいね」というのに対し、「はい！」と元気な返事をする息子。しかし、検査中一度も手を挙げません。検査医の先生が若干動揺しながら「聞こえてたかな？」と問いかけるのに対し、元気よく「うん！」と答える3歳児。どうやら、飛行機の音に聞き入っていたようです……。しばらくそんなやりとりを繰り返しながら、ようやく手を挙げることに成功した息子。結果、聴力は問題ありませんでした。（先生、大変お騒がせしました）

尿検査と低身長については、幸いかかりつけの小児科が腎臓の専門医でもあったので、そこで診ていただくことができました。尿検査は3か月間毎月1回尿検査を、低身長は尿検査のついでに身長を測ってもらうことになりました。結果……どちらも問題ありませんでした！尿検査は「健診前日の熱のせいでしょうね。」とのこと。低身長については、一時期半年ほど身長が伸びない時期があったのですが、先々月から急に毎月1センチずつ伸び始め「何だったんだろうね？これなら問題ないね」とのこと……。子どもの体は謎だらけです。

力強いサポート

そんなこんなで、無事精密検査をクリアすることができました。「大丈夫だろう」「でも大丈夫かな…」という2つの気持ちの間で正直ハラハラさせられましたが、とりあえず健康だということがわかり、ほっとしています。今回のことで、健診の姿勢が「念には念を」であることがわかり、（今まで考えたことがなかったけれど）福祉の手厚さと、子育てするのに強いバックアップがあるという安心感を感じることができました。そして、元気があればそれで十分だということも強く思いました。

（追記）先日、再び保育園で身体測定があったのですが、先月からなんと1.7cmも伸びていました。立派に成長期、していました。